

令和6年3月期 通期見込及び中間決算概要（連結）

1. 通期見込及び中間決算実績

（単位：億円（単位未満切捨て））

区分		R5年度 通期見込 ※1	R4年度 通期実績	増減	R5年度 上期実績	R4年度 上期実績	増減
営業収益	高速道路事業	10,630	9,373	1,256	5,002	4,273	728
	料金収入	7,560	7,296	264	3,839	3,640	199
	道路資産完成高	3,041	2,050	991	1,147	620	527
	その他	27	27	0	15	13	2
	関連事業	507	397	109	199	178	21
	S A・P A事業	314	269	45	155	129	26
	その他の事業	192	127	64	43	48	▲5
計	11,137	9,770	1,366	5,201	4,451	749	
営業費用	高速道路事業	10,643	9,402	1,241	4,905	4,121	784
	道路資産賃借料	5,352	5,158	194	2,710	2,523	187
	道路資産完成原価	3,041	2,050	991	1,147	620	527
	管理費用	2,249	2,193	55	1,048	977	70
	関連事業	459	373	86	175	172	3
	S A・P A事業	274	252	21	132	123	9
	その他の事業	185	120	64	42	48	▲5
計	11,103	9,775	1,328	5,081	4,293	788	
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	▲13	▲28	15	96	152	▲56
	関連事業	47	24	23	23	5	17
	(うちS A・P A事業)	40	17	23	23	6	17
	計	34	▲4	38	119	158	▲38
経常利益 (損失▲)	57	16	41	131	168	▲36	
当期 (中間) 純利益 (損失▲) ※2	43	3	39	103	120	▲16	

表の右側の丸囲み番号については、2ページ以降に解説を記載しています。

※1 「通期見込」は、将来見通し及び計画の基となる前提・予測を含んでおり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

※2 「当期 (中間) 純利益 (損失▲)」には、「親会社株主に帰属する当期 (中間) 純利益 (損失▲)」を記載しています。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	S A・P A事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理
	その他の事業	受託事業、駐車場事業、トラックターミナル事業、コンサルティング事業等

※文中の丸囲み番号は、1 ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

2. 通期見込の解説

(1) 高速道路事業

- ① 料金収入は、前期に比べて交通量の増加が見込まれ、対前期 264 億円 (3.6%) 増の 7,560 億円となる見込みです。
- ②③ 道路資産完成高は、E9 京都縦貫自動車道 (宮津天橋立 IC~丹波 IC) の移管などがあり、前期からは 991 億円増の 3,041 億円となる見込みです。
なお、道路資産完成高は、道路建設にかかった経費と同額の債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構 (以下「高速道路機構」といいます。) に引き渡すため、道路資産完成原価と同額となり、営業利益に影響しません。
- ④ 高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期 194 億円増の 5,352 億円となる見込みです。
- ⑤ 管理費用は、前期に比べて電気代、外注費 (労務費等) の増加等を見込んでおり、対前期 55 億円増の 2,249 億円となる見込みです。
- ⑥ 高速道路事業の営業利益 (▲損失) は、対前期 15 億円増の▲13 億円を見込んでいます。

(2) 関連事業

- ⑦ S A・P Aの飲食物販店舗売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響緩和に伴い、対前期 133 億円 (15.7%) 増の 983 億円を見込んでおり、S A・P A事業の営業収益は、対前期 45 億円増の 314 億円となる見込みです。
- ⑧⑨ S A・P A事業の営業利益は、対前期 23 億円増の 40 億円、関連事業全体では対前期 23 億円増の 47 億円となる見込みです。

(3) 全事業

- ⑩ 最終損益は、対前期 39 億円増の 43 億円となる見込みです。

※文中の丸囲み番号は、1 ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

3. 中間決算実績の解説

(1) 高速道路事業

- ⑪ 管内の高速道路の通行台数は、対前年同期 3.9%増の 302 万台/日となり、料金収入は、対前年同期 199 億円 (5.5%) 増の 3,839 億円となりました。
- ⑫ 高速道路事業の営業利益は、安全・安心のための構造物補修費用等の管理費用の増加等により、対前年同期 56 億円減の 96 億円となりました。【注】

(2) 関連事業

- ⑬ S A・P Aの飲食物販店舗売上高は、対前年同期 87 億円 (21.4%) 増の 496 億円となり、S A・P A事業の営業収益は、対前年同期 26 億円増の 155 億円となりました。
- ⑭⑮ S A・P A事業の営業利益は対前年同期 17 億円増の 23 億円、関連事業全体では対前年同期 17 億円増の 23 億円となりました。

(3) 全事業

- ⑯ 当期純利益は、対前年同期 16 億円減の 103 億円となりました。

【注】 冬季における交通を確保するための雪氷対策や維持修繕関係工事の完成が下期に多いことから、高速道路事業の営業利益は下期と比較して上期が大きくなります。

【参考】 個別通期見込及び中間決算実績

(単位：億円 (単位未満切捨て))

区分		R5年度 通期見込 ※	R4年度 通期実績	R5年度 上期実績	R4年度 上期実績
営業収益	高速道路事業	10,613	9,357	4,993	4,267
	料金収入	7,562	7,298	3,840	3,641
	道路資産完成高	3,041	2,050	1,147	620
	その他	9	9	6	6
	関連事業	255	175	81	80
	S A・P A事業	109	98	54	48
	その他の事業	145	76	27	31
	計	10,868	9,532	5,075	4,347
営業費用	高速道路事業	10,630	9,396	4,878	4,090
	道路資産賃借料	5,352	5,158	2,710	2,523
	道路資産完成原価	3,041	2,050	1,147	620
	管理費用	2,236	2,188	1,020	946
	関連事業	238	166	73	76
	S A・P A事業	95	90	46	44
	その他の事業	143	75	26	31
	計	10,869	9,563	4,951	4,166
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	▲17	▲39	115	177
	関連事業	16	9	7	3
	計	▲1	▲30	123	180
経常利益 (損失▲)		23	▲9	143	196
当期 (中間) 純利益 (損失▲)		19	▲10	112	144

※ 「通期見込」は、将来見通し及び計画の基となる前提・予測を含んでおり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。